

9 人と風物詩

歴史的遺産を守っている人たちには誇りがある。商いを続けている人たちには粋がある。数々のイベントやお祭りを盛り上げている人たちには温もりと力がある。現代を生きる小樽人に会い、「誇り」「粋」「温もり」「力」、その他、様々な要素を感じた。

小樽にゆかりのある人たちがこれまでに紡いできた歴史について学び、小樽に生きる人たちには、以下の要素が気質傾向として受け継がれているのではないかと感じた。

- ・必要なものをつくり、大切なものを残す。
- ・勇気を持って果敢に挑戦を続ける。
- ・問題があれば解決するための方策を考える。
- ・歴史や伝統文化を見つめ、その上に立った新たな歩みを進める。
- ・個々が担える役割を模索、発見、遂行する。
- ・人とのつながりを大切にしながら、大きなことを成し遂げる。
- ・良いものを受け入れ、地域に合った形で定着させる。
- ・地域の発展について考える。

そんな小樽人的要素、気質とも言えるものを根底に持ち、自然に鍛えられ、学校、家庭、社会での教育、親や先人たちの背中を見ることなどによって、小樽に生きる人たちの生きる力が育まれた。そうした個々の力が結集し、大きなことが実現する。

その代表的な冬の例が、「小樽雪あかりの路」だとすると、夏の代表的な例は、やはり、7月に行われる「潮まつり」だろう。「潮まつり」は、太鼓で祭りの始まりを知らせる「潮ふれこみ」に始まり、イベント各種、大勢の参加者や団体が街中を踊り歩く「潮ねりこみ」、大漁旗をなびかせて漁船団が港内の海上を巡るパレードの「潮わたり」、最終日には花火で華々しく終わるといふことで、祭りの後も盛大な祭典の余韻を楽しむことができそうだ。

私は昨年、7月の下旬に小樽を訪れ、長く滞在する余裕がなく、「潮まつり」の前に東京に戻ってしまった。その後、かなりの心残りがあり、インターネットの動画で踊りの場面を見せて頂いた。海の男たちの踊りはもっと荒々しいものかと思っていたら、意外と型を崩さない粋な踊りに見えた。

「お祭りで まとうは私の 心意気」といった感じだろうか。

今年はその時期に小樽を訪れ、初めての「潮まつり」を体験させて頂く。市民の方々によるイベント活動を見ることも大きな楽しみの一つ。

こうした大きな祭りやイベントに加え、数ある神社等で様々な祭りが行われるようで、小

樽の人たちの祭り好きな側面が伺える。

良い意味で、「小樽人 何かにつけて 祭り好き」と言えるのではないか。

そういう気質は、まちを盛り上げていく上で非常に大切だし、何か面白いことを考えよう
良いアイデアはないか、といった具合に、発想を産むことにもつながるから、次世代を生
きる人たちにも、是非とも受け継いで頂きたい。



(潮まつり)

(写真提供・小樽ジャーナル)